

国語 第1学年 としょかんはどんなところ

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を私の学級に合わせて直してください。初めに、学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や配慮、使える時間と本時の位置、ICTと紙の道具の条件を一項目ずつ質問し、答えを待ってから次の質問へ進んでください。条件がそろったら、図書館と本に親しむことという目標を保ち、図書館の使い方カードで学びを確認できるように全体を直してください。教科書の本文や台詞、挿絵、固有の問題は転載しないでください。配当時数は出典に従い、活動の配分を提案する場合は提案と明示してください。児童の姿を実測済みの事実として創作しないでください。三重の指導案の見出しの順と評価の三観点を保ち、内部IDなどを先生向けの文章へ出さないでください。変更箇所と根拠を示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「としょかんはどんなところ」 教材名「としょかんはどんなところ」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、いろいろな本があることを知り、関心のある本を選んで読書に親しんでいる。思考・判断・表現では、本の置き方や借り方を確かめ、読みたい本を探して選んだ理由を伝える。交流や試行の前後を比べ、図書館の使い方カードを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①いろいろな本があることを知り、関心のある本を選んで読書に親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)エ）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、本の置き方や借り方を確かめ、読みたい本を探して選んだ理由を伝えている。（C(1)カ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

この単元では、図書館と本に親しむことを中心に学ぶ。本の置き方や借り方を確かめ、読みたい本を探して選んだ理由を伝える活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(3)エとC(1)カに関係する学習である。公式単元一覧では知識事項が中心であるが、本案では言葉を使って見直す活動に関わるC(1)カを関連事項として加えた。成果は、図書館の使い方カードに示した判断と理由から捉える。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

予想される難しさは、本棚を順不同に探し続けることである。棚の表示と表紙を一緒に見て、困ったときの尋ね方を練習する。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

第1次 第1時（本時）：○本の置き方や借り方を確かめ、読みたい本を探して選んだ理由を伝える。○考えた理由を交流し、図書館の使い方カードを仕上げる。評価：知①・思①（学習記録）／態①は関連する学習の記録も合わせて見る。

6 本時の指導（1／1）

（1）本時の目標

本の置き方や借り方を確かめ、読みたい本を探して選んだ理由を伝えることができる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。

○「読みたい本はどこで見付けられるか」

【めあて】図書館と本に親しむことについて、自分の考えと理由を表そう。

予想される児童の反応：・棚の表示を見ると探す場所が理解できた。

・どこを確認すれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。

指導上の留意点：本時に使う具体例を見える所へ置く。本棚を順不同に探し続ける姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。

【展開】

学習活動：2 本の置き方や借り方を確認、読みたい本を探して選んだ理由を伝える。

3 本文や資料のどこからそう考えたかを示し、「読みたい本はどこで見付けられるか」について伝え合う。

4 友達と異なる点を本文や資料で確認、読みや説明を見直す。

予想される児童の反応：・棚の表示を見ると探す場所が理解できた。

・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。

指導上の留意点：棚の表示と表紙を一緒に見て、困ったときの尋ね方を練習する。知識・技能では、いろいろな本があることを知り、関心のある本を選んで読書に親しんでいる。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。

評価：①本の置き方や借り方を確認、読みたい本を探して選んだ理由を伝えている。(C(1)力)(本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明)

【まとめ】

学習活動：5 図書館の使い方カードを確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。

【まとめ】本は題名や紹介、内容を確認して選ぶことで、自分の関心や読む目的と結び付く。

6 最初から変えた点、理由を確認して残した点を振り返る。

予想される児童の反応：・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。

指導上の留意点：結論が教師の例と同じかだけで判定しない。読みたい本はどこで見付けられるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。

評価：知①(図書館の使い方カードと実際の言葉の使用)・態①(単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、本の置き方や借り方を確認、読みたい本を探して選んだ理由を伝えている姿である。本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明を基に判断する。本棚を順不同に探し続ける場合は、棚の表示と表紙を一緒に見て、困ったときの尋ね方を練習する。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画(縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には図書館と本に親しむことを確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に図書館の使い方カードで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

